

大阪公立大学の学長に求められる要件

1. はじめに

◆大阪公立大学の現状

我が国の2022年における18歳人口は約112万人、出生数は約77万人という危機的ともいえる少子化が進み、大学間の競争は更に激しくなることが予想されている。同年に開学した大阪公立大学は、学部・学域入学定員数が国公立大学第3位の規模と、文系・理系・医療系の幅広い教育研究領域を擁する総合大学である。「大阪公立大学憲章」◀参考①▶と「大阪公立大学 vision2030」◀参考②▶を基本に、教育・研究の質向上及び社会貢献の充実を図り、大阪、日本ひいては世界へと発展する大学をめざしている。

◆新たな拠点整備

2025年秋に開設する森之宮キャンパスは大阪府市等による「大阪城東部地区のまちづくり」戦略の中で、まち全体の次世代型スマートシティ化を牽引する重要な役割が期待されており、本学がまち全体の発展と活性化の観点で大胆に戦略を描き先導することが求められている。

◆産学官民共創で、さらなる「知の拠点」に向けて

各キャンパスの強みや特性を活かしたネットワーク型のイノベーションエコシステム拠点を整備し、研究、産学官連携、人材育成の観点から産学官民共創を強力に展開する「イノベーションアカデミー事業」では2024年度に中百舌鳥キャンパスにハブ拠点が完成する予定であり、高度研究型大学として、地域の発展と世界レベルの課題解決に貢献する「知の拠点」として、本格的な活動を開始する。

◆国内外問わず至るところで活躍できる人材の育成

環境や社会のあり方が急速に変化する中、文理横断的な知識や能力に加え、多様な価値観を身に付けた人材を育成することが求められている。地域課題はもとより地球規模の課題解決を先導するグローバル人材や、社会共創を実現するイノベーション人材、DX・GXの中心を担う人材、高度な専門知識をもとに社会を俯瞰的にとらえ課題解決を図る博士人材など、国内外問わず至るところで活躍できる人材の育成が必須である。

◆社会に貢献する大学として

本学は常に「社会に貢献する」ことを念頭に、大都市大阪が抱える諸課題を普遍的課題と捉え、「総合知」を駆使して解決へ邁進することで、大阪の経済などの成長に資するとともに、日本全体ひいては世界に貢献する。また大阪府市の「都市シンクタンク機能」を果たすことは、大規模公立大学としての新しいモデルとなると同時に本学自身の持続的成長を促すことにもなる。

2. 学長に求められる資質・能力

本学は開学とともに新たな機能を充実させながら進んできた。新たな中期計画期間が始まる2025年度には学士課程一期生の卒業年度を迎え、さらなる成長ステージに向けた変革と飛躍が期待される。学生ファーストの姿勢を持ち、卒業後のキャリア形成も見据えてどのように育てていくのか、また卒業生との連携をどのように強化するかなど、学長に求められる資質や視点は極めて多岐にわたる。

このような中、第2代学長には、未来を見通した先進的な教育研究組織を構想すること、本学を革新しつつ、既存の発想にとらわれない「新たな大学の姿」を提示することなど、大学改革の更なる推進が求められる。

- (1) 本学や大阪に愛情を注ぎ込むことができるのはもちろんのこと、人格が高潔で学識が優れ、すべての教職員の目標となり得る人物であり、国際的な視野と改革精神をもって教育・研究活動を積極的かつ適切に運営することができる者。
- (2) 大阪公立大学 vision2030 や策定予定である法人の第二期中期計画を踏まえ、明確なビジョンと方向性を示し、強いリーダーシップを発揮し、コミュニケーション能力とマネジメント能力をもって学内の合意形成に努めるとともに、高度な課題解決力や実行力をもって、本学のさらなる成長とブランド構築を成し遂げることができる者。
- (3) 教育・研究及び社会貢献等の成果を社会に発信し、卒業生や保護者の皆様をはじめ、内外すべての関係者やステークホルダーと真摯に向き合い、共創を推進できる交渉力、傾聴力、関係構築力、情報発信力を持ち合わせている者。
- (4) 財務、人事、企画、渉外など法人経営分野における見識を有し、法人の副理事長として理事長を補佐するとともに、設立団体でかつパートナーである大阪府市と連携を図ることができる者。

3. 第2代学長として中長期的な構想を持つべき課題

- (1) 自ら考える力と豊かな発想力を備えた国際性豊かな高度人材を育成するため、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる学修成果の達成をめざし、学修者本位の教育の実現に向けてカリキュラムのより一層の充実や見直しを図ること。
- (2) 学生が知的好奇心に満ちあふれ、キャンパスライフを生き活きと送ることができるよう、教育環境のより一層の発展に取り組むこと。

- (3) 教員、研究者のモチベーション向上の施策を講じ、国内外の大学等と連携して研究を推進するなど、高度な研究力を基盤とした国際競争力の強化を目指す取組みを展開すること。
- (4) 設立団体等との緊密な連携の下、イノベーションアカデミー事業や「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」等の推進を核として「都市シンクタンク機能」と「技術インキュベーション機能」を充実・発揮させ、大阪城東部地区のまちづくりを牽引することをはじめ、都市課題解決に貢献するとともに、大阪、日本、ひいては世界のWell-beingの向上に貢献できるよう努力すること。
- (5) 人材、財源、大学設備等の資源を最大限に有効活用することにより、最適化の視点をもって時代の要請に応じた学部、研究科等のあり方を検討するとともに、設立団体とも緊密に連携してキャンパス再編及びそれに伴う整備に取り組むこと。
- (6) 多様で秀逸な人材を多く登用・育成し、次世代への教育研究に対する一層の充実を実現させるとともに、国内はもとより世界中から、国籍や性別・年齢等を超えた優秀な人材・学生に選ばれる大学となるため、不断の努力を重ねること。

《参考①》 大阪公立大学憲章

人々とその活動が集積し、新たな学問創造がなされる場として、都市は豊かな機能を包摂する。その都市が抱える多くの諸課題に対して、さまざまな英知を結集して正面から取り組み、その成果を人々とともに分かち合うことは、都市に位置する大学としての重要な使命である。この使命の達成に向けて、大学において培われた人類普遍の真理の探究と、人権・自由・平等・平和の尊重という精神は、極めて大きな意味をもっている。

これらの精神は、広い分野の総合的な知識と高度な専門的学術の教育・研究を通じ、豊かな人間性と高い知性を備え、応用力や実践力に富んだ、社会の牽引役となる優れた人を育成することにより、十全に発揮される。

大阪公立大学は、人類の平和と社会の持続的な発展に資するとの認識に立脚し、大学のもつ積極的な教育・研究・社会貢献等の諸活動により、世界に飛躍する地域の信頼拠点として、大都市大阪ひいては国際社会の発展に寄与する、人々にとって誇りある大学を目指すべく、その理念と目標を大阪公立大学憲章として、ここに制定する。

【教育】

大阪公立大学は、現代人として必要な教養を修得し、国際感覚の錬磨によって幅広い視野に立ち、高い倫理性のもと、自主的・総合的な判断力、問題発見解決能力、および豊かな人間性と社会に積極的に参画する市民的公共性を身に付け、生涯にわたり継続的・発展的に学び成長できる人の育成を目指した教育を行う。

【研究】

大阪公立大学は、学術研究の自主独立・自由・進取の精神のもと、多様性および国際性を重んじ、これらを融合し、信頼性と公正性を担保した高度な学術研究の推進により、真理の探究と知の創造を展開・継承するとともに、社会的課題の解決に向けて新たな学術分野を開拓し、研究成果の社会への還元を目指す。

【社会貢献】

大阪公立大学は、大都市大阪に位置する公立の総合大学として、地域社会、自治体、産業界と密に連携し、大学の有する専門知と資源をもって、文化の発展・継承、人々の健康保持・増進ならびに多様な都市問題の解決に取り組むとともに、高度な研究を推進し、その成果を社会に還元することにより、地域社会ひいては国際社会の発展に寄与する。

【運営】

大阪公立大学は、学長のリーダーシップによって、自主・自律の精神に基づき、全学的な意思形成に努める民主的な大学運営を行い、大学を取り巻く状況に対して迅速かつ公正に対応することを通じて、社会に対する説明責任に応える。

《参考②》 めざす大学像 ～「大阪公立大学 vision2030」骨子～

大阪公立大学は、総合知で未来社会を創生する大学となるために、(1)「知の拠点」の構築、(2)社会課題への挑戦、(3)持続可能性への貢献、という3つの目標を設定し、これを達成するために6つのvisionを掲げています。

Vision 1 社会共創

大阪に根差した日本で最大規模の公立大学として、行政および各種コミュニティ、産業界との連携を強め、大学の知を地域の様々な課題解決のために活用し、人々の健康と福祉、そして文化的生活の向上に貢献します。

Vision 2 教育

高度な専門性と広い学際性の両面から物事の本質を問う力と課題を解決する力を有し、他者と協働しながら未来社会をデザインできる人を育てます。

Vision 3 研究

学理の探究を核とした世界水準の基礎・応用研究、学際研究を推進し、国際競争力の高い大学を目指すとともに、社会課題の解決に挑戦します。

Vision 4 医療

最先端の医学的知見を生かし、医療分野を先導する医療人を育てるとともに、患者本位の良質な医療を提供することで、持続可能な社会の実現に貢献します。

Vision 5 国際協働

国際教育・研究ネットワークの構築を通じて、国際的な相互理解を進めることのできるグローバルリーダーの輩出と知の循環を促進し、地球規模の課題解決に貢献します。

Vision 6 ガバナンス

学長のリーダーシップの下、多角的な財務基盤の構築と戦略的な資源の配分を推進することで、大学運営体制を革新します。